

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	貝形虫分析による和歌山平野の沖積層形成過程の研究		
研究者	(所属と氏名) 大阪市立大学大学院理学研究科・三田村 宗樹		
研究期間	2012年2月 ~ 2013年1月	報告日	2013年2月1日
<p>研究目的：</p> <p>和歌山平野で掘削された和歌川基準ボーリングのコア試料と三田地域で掘削された OCU 三田ボーリングのコア試料の沖積層に含まれる貝形虫分析を実施し、和歌山平野域の沖積層形成過程における水域環境変遷を評価する。</p>			
<p>研究内容と成果：</p> <p>和歌山平野における多数のボーリングデータの解析から沖積層の分布について検討し、平野南部における和歌川基準ボーリングと OCU 三田ボーリング 2 箇所のボーリングのコア試料を扱い、その完新世堆積物に含まれる貝形虫化石の群集解析を行った。貝形虫は水深や底質環境によって、その群集組成に違いが生じることから、2 地点の完新統における生層序区分をそれぞれ行い、貝化石から得られた ^{14}C 年代をふまえて、各地点の水域環境の時系列変化を示した。その結果、以下の環境変遷が明らかになった。現在の和歌山平野沿岸域には約 9000 年前に海域が及び始め、その後の急速な海面上昇に伴って約 8000 年前にはより内陸に海域が広がった。そして、約 6500 年前に最も内陸域に海域が拡大し、現在の沿岸部に発達した砂州によって閉鎖的内湾域となった。その後、閉鎖的内湾域は徐々に紀ノ川の河川堆積物に埋め立てられ現在の和歌山平野が形成された。以上のように、これまでその詳細が明らかでなかった和歌山平野における完新世水域環境変遷と沖積層形成過程をまとめた。</p>			
<p>公開資料 (論文等)：</p> <p>日本第四紀学会・日本地質学会を通じて公表予定。</p>			

貸出期間終了後、研究利用報告書 (本様式) と研究成果 (論文等) を提出してください。
研究利用報告書は、KG-NET の HP に掲載いたします。